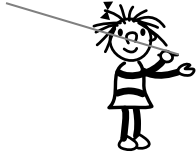


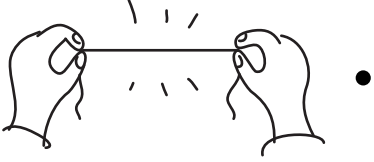
1「どれかどれかな?」と問い、考えさせる。  
2「いずれも擬音語・擬態語である。進まないときは絵の状況をイメージさせる。  
3「イメージがもたない場合は実演してみせる。  
4他にどんな表現があるかを問うと面白い。

a) ば行の読み。  
b) 擬音語・擬態語(オマツ)は通念として記号化された語なので、知らない場合は聴かせ、感じ取らせる。  
c) 新たなオマツは、表現と認識に幅を与える。大人が抽象概念を語によって獲得するのと同じ。

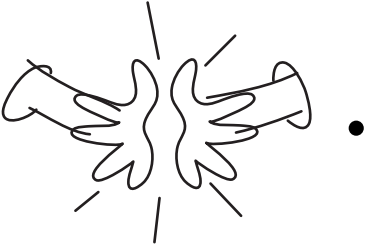
特定用具:不要  
Date:



どれか どれかな?



・ ぱん



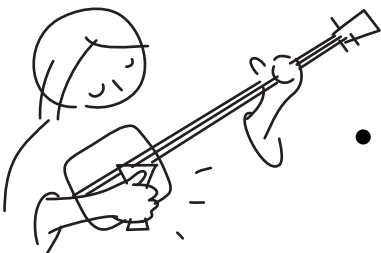
・ ぴん



・ ぷん



・ ぺん



・ ぽん